

令和4年度
第5回
宗岡小学校運営協議会



令和5年3月3日（金）

志木市立宗岡小学校

令和4年度 志木市立宗岡小学校
第5回 学校運営協議会

令和4年3月3日(金)
宗岡小学校 多目的室

日 程

- 学校運営協議会 13:30~15:00
(中断)
○6年生を送る会(5校時) 参観 13:50~14:35

次 第

- 1 開会 司会 教頭
- 2 校長あいさつ
- 3 議事 司会 委員長
- (1) 令和5年度 学校経営方針(案)について.....校長
- (2) 小中一貫教育について.....校長
- (3) 学校関係者評価について.....校長
- (4) 情報提供等
- (5) 意見交換
- 4 諸連絡
- 5 閉会

令和5年度 志木市立宗岡小学校 学校経営方針（案）

校長 小木曾 久美子

1 基本理念

自分がすき 友だちがすき 町がすきな 宗小の子

宗岡小学校は、明治7年に開校して以来 149年の歴史と伝統を誇り、地域に根差した学校である。保護者や地域の方々の多くが本校の卒業生であり、コミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が連携し、計画的、組織的、継続的に教育活動を推進してきた。まさに、本校は宗岡地区で生活する人々の共通の場であり、身近な存在である。そのため、「自分がすき 友だちがすき 町がすき 宗小の子」は、長年にわたり本校の学校教育目標として学校のみならず、家庭、地域にも浸透してきた。この学校教育目標のもとで、本校では様々な教育活動を地域と協働しながら進めてきた結果、地域で育った子供が成長し、地域を支える大人になるというサイクルが確立されている。「自分がすき 友だちがすき 町がすき 宗小の子」は、地域に根差した本校の根幹であることから、今後も基本理念として継承していく。

2 学校教育目標

これからの社会を考えると我が国では超スマート社会（Society 5.0）に向けてIoTやビッグデータ、AI などをはじめとする技術革新や異次元の高齢化の進展などにより、これまでにない社会システムの大きな変化が見込まれる。

子供達がこれからの変化の激しい社会を生き抜くためには、教育において、生きる力をさらに伸ばし、夢や志、豊かな心を持ちつつ、社会の激しい変化に対応して、主体的に社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造する力を育てていくことが重要である。

そこで、学校教育目標を次の通りとする。

【学校教育目標】

よく考える子 思いやりのある子 心も体も元気な子

「よく考える子」…社会の変化を正確に予測することが困難な時代において、小学校において、社会の変化に対応し、主体的に考え行動して、未来に向けた新しい価値を創造するための力の基礎を育成することが重要である。宗岡小学校では、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成を図り、児童一人一人が、身に付けた知識を基に、様々な課題に対して主体的に考え、行動することができるようにする。

「思いやりのある子」…社会全体が多様化する中で、自らの人生や社会における答えが定まらない問いを受け止め、多様な他者との議論を重ね、自分も周囲も納得することができるものを見出す力が求められている。宗岡小学校では、基礎的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を高めるとともに、自らを律しつつ、他者を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を持ち、自他の考えや意見の相違を肯定的に受け止め、協働することができる児童の育成を図る。

4 目指す教師像

- 使命感と実践的指導力（授業力・学級経営力）をもつ教師
- 児童を理解し、児童を大切にする教師
- 広い視野と社会性をもち、高め合う教師
- 教育公務員として服務に厳正であり、職務に精励する教師
- 児童や保護者、地域社会との信頼関係を構築する教師

(1) 使命感と実践的指導力（授業力・学級経営力）をもつ教師

- ・教職に対する強い情熱をもっている教師。
- ・児童に学ぶ喜びや楽しさを味わわせ、誰一人取り残さない授業を実践する教師。
- ・児童一人一人が安心感をもち、輝くことができる学級を実現する教師。

(2) 児童を理解し、児童を大切にする教師

- ・児童の良さや可能性を的確にとらえ、引き出す教師。
- ・児童の心に寄り添う指導する教師。
- ・児童の良い点を褒めることができ、直すべき点を注意する教師。

(3) 広い視野と社会性をもち、高め合う教師

- ・児童を一方向だけでなく様々な角度から見る教師。
- ・社会人としての幅広い教養と良識や倫理観、心の豊かさを身に付けている教師。
- ・互いに学び合い、持てる力や知恵を出し合い、高め合いながら協働する教師。
- ・向上心をもち、常に学び続ける教師。

(4) 教育公務員として服務に厳正であり、職務に精励する教師

- ・自身が果たすべき使命をしっかりと意識し、
強い使命感があり、誇りと気概を持って職務に励む教師。
- ・不祥事防止の取組を自分事としてとらえ、実践する教師。

(5) 児童や保護者、地域社会との信頼関係を構築する教師

- ・児童一人一人に関心をもち、共感的な理解に心掛け、誠実な態度を示す教師。
- ・保護者の疑問や相談等に対して、速やかに誠実に対応する教師。
- ・保護者や地域の声に耳を傾ける教師。

5 本年度の重点・努力点

(1) 教育活動の充実

- ・小中一貫教育に向けた確かな学力の育成。
- ・いつでもどこでも誰にでも気持ちの良い挨拶ができる児童の育成。
- ・コロナ禍における主体的・対話的で深い学びの学習活動の研究と推進。
- ・自分の思いや考えを生き生きと表現する児童の育成。(学校研究課題)
- ・iPadをはじめとした ICT 機器の有効的な活用。

(2) コミュニティ・スクールの充実

- ・地域に開かれた学校の更なる推進。
- ・宗岡地区の伝統を活かし、保護者・地域と連携した教育活動の推進。
- ・ポストコロナ 小中一貫教育を見据えた保護者・地域との連携のあり方の研究。

宗岡二中ブロック 学園名 検討について

・児童・生徒の願いや思いを募る。その後、ある程度、絞られた段階で、「学園名検討委員会」を実施する。(生徒会、児童会、運営協議会、教員)

その後、3校運営協議会で承認。決定

・宗岡〇〇学園とする。

・宗二中学生会中心に小学校二校の児童会と連携する。

スケジュール

4月 生徒会、児童会に趣旨を説明する。

各クラスにおろし、意見を吸い上げる。(代議員、代表委員)

5月 生徒会、児童会を中心に3つ程度に絞る。

6月 学園名検討委員会 開催

7月 運営協議会開催 承認 決定

学園名検討委員会

・生徒会、児童会、学校運営協議会、教員

・4グループに分け、それぞれのグループに上記のメンバーを割り振る。

・それぞれのグループ内で学園名について意見を述べる。(運営委員、教員はオブザーバー)

・できれば、1つに絞り込んでいく

宗岡二中ブロックにおける学年段階の設定について（案）

志木市小中一貫教育に係る「学年段階の区切り」検討委員会(2月24日)において、各中学校区の児童生徒の実態に応じて学年段階の区切りを設定することが確認されました。

宗岡二中ブロックでは、現在行われている6-3制で、小中一貫教育を進めていくこととします。

- ・施設分離型のためこれまで通りそれぞれの学校において小学校課程と中学校課程を実施したほうが適切でと考えます。
- ・学年の区切りを変更する際の児童生徒、教員の混乱がありません。
- ・入学式、卒業式がこれまで通り行われることを考えると、これまで通り、6年生を前期段階の最上級生として自覚を持たせるとともに、後期段階で新たな気持ちでスタートさせることができると考えます。
- ・小学校では6年間の教育において、低・中・高の学年ブロック(2-2-2制)を形成し、それぞれのブロックで目標を設定した指導を行っています。従って、今各校で行われていることを深化することが最適であると考えます。

(1)9年間継続した指導のもとで学習に取り組みます。中学校の学習への接続を意識した小学校での指導と、小学校での学習を踏まえて連続性を意識した中学校での指導を行うことにより、9年間継続した系統的な学習に取り組むことができます。発達段階に即した「学び」の系統性と連続性を確保し、円滑な接続を図ります。また、特別支援教育における学校間の連携・協力体制の強化が図られ、系統的な指導を行うことができます。

(2)環境の急激変化を緩和します。小学校から中学校への環境の激変を緩和する取組を行うことや、小学校での効果的な指導を、発達段階を考慮して中学校に引き継ぐことで、子ども達がストレスを感じることなく、中学校生活に円滑に馴染んでいくことができます。

(3)児童・生徒の発達状況に合わせ、9年を通した生徒指導を行います。中学校でのつまずき思春期を通じた課題について、小・中学校間が情報共有することで、9年間の継続的かつ一貫性をもった生徒指導を行うことができます。また、個別の対応においても、小・中学校が互いに情報の共有を図り、協力し合いながら、早期対応を行うことができます。

(4)現行の教育制度(6・3制)を基本とする中で、中1ギャップの緩和を工夫します。

現行どおり、学年段階の区切りは6・3制のままで行うことを基本とします。

その中で、中1ギャップの緩和を工夫するために、以下の取組を行います。

①小学校6年生の中学校登校を、年1回以上実現します。

②小学校5・6年の高学年では、一部教科担任制の導入に向けて、指導体制の工夫充実を図ります。

③部活動見学・体験の機会を設定します。

夏季休業中等を活用して、小学校6年生が中学校の部活動を見学、または、体験する機会を設定します。

④教育相部会を充実させて情報共有を進めます。

学校で週一回行われている教育相談部会に担当者がそれぞれの小学校からオンラインで参加し、情報共有を一層進め、不登校生徒を減少させます。